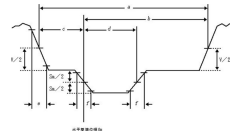


1 走査線数が525本であつて、走査方式が1本おき及び順次の場合の水平同期信号

(1) 水平同期信号の波形



(2) 水平同期信号の許容範囲

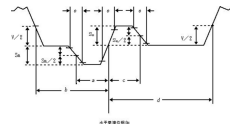
項目		許容範囲	
記号	走査線数	525本	
	走査方式	1本おき	順次
a	水平ブランキング期間 (μs)	10.70+0.30 -0.20	5.35+0.15 -0.10

b	映像信号開始点 (μs)	9.20+0.20 -0.10	4.60+0.10 -0.05
c	映像信号終了点 (μs)	1.50+0.10	0.75+0.05
d	負極性パルス幅 (μs)	4.70+0.10	2.35+0.05
e	水平ブランキング立ち下がり時間 (10~90%) (μs)	0.14+0.02	0.07+0.01
f	水平同期信号立ち下がり／立ち上 がり時間 (10~90%) (μs)	0.14+0.02	0.07+0.01
Sa	負極性パルス振幅 (mV)	300+7.5	300+7.5

注 V は映像信号の振幅を示し、700 (mV) である。

2 走査線数が750本であつて、走査方式が順次の場合の水平同期信号

(1) 水平同期信号の波形



(2) 水平同期信号のレベルの許容範囲

記号	項目	許容範囲
S _a	負極性パルス振幅 (mV)	300+6
S _b	正極性パルス振幅 (mV)	300+6

(3) 水平同期信号の許容範囲

記号	項目	許容範囲
a	負極性パルス開始点 (T)	40+3
b	映像信号終了点 (T)	110-0

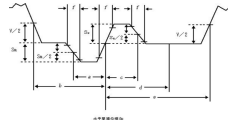
c	正極性パルス終了点 (T)	40+3
d	映像信号開始点 (T)	260-0
e	パルス立ち上がり時間／立ち下がり時間 (T)	4+1.5

注 1 T は基準クロック期間を示し、輝度信号標準化周波数の逆数である。

2 V は映像信号の振幅を示し、700 (mV) である。

3 走査線数が1125本であつて、走査方式が1本おき及び順次の場合の水平同期信号

(1) 水平同期信号の波形



② 水平同期信号のレベルの許容範囲

記号	項目	許容範囲
S_a	負極性パルス振幅 (mV)	300 ± 6
S_p	正極性パルス振幅 (mV)	300 ± 6

③ 水平同期信号の許容範囲

記号	項目	許容範囲
a	負極性パルス開始点 (T)	44 ± 3
b	映像信号終了点 (T)	$88 - 0$ $+ 6$
c	正極性パルス終了点 (T)	44 ± 3
d	クランプ終了点 (T)	132 ± 3
e	映像信号開始点 (T)	$192 - 0$ $+ 6$

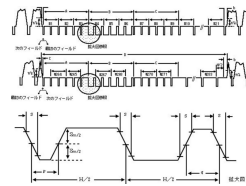
f	パルス立ち上がり時間／立ち下がり時間 (T)	4 ± 1.5
---	------------------------	-------------

注 1 T は基準クロック期間を示し、輝度信号標準化周波数の逆数である。

2 V は映像信号の振幅を示し、700 (mV) である。

4 走査線数が525本であつて、走査方式が1本おきの場合の垂直同期信号

(1) 垂直同期信号の波形



(2) 垂直同期信号の許容範囲

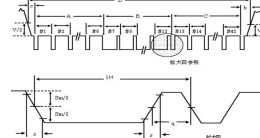
記号	項目	許容範囲
D	垂直ブランキング期間 (μs)	$21H + 10.7 + 0.30$ $- 0.20$
A	等化パルス期間 (H)	3 ± 0
B	垂直同期パルス期間 (H)	3 ± 0
C	等化パルス期間 (H)	3 ± 0
s	垂直同期パルスの立ち上がり／立ち下がり時間 (10～90%) (μs)	0.14 ± 0.02
p	等化パルス幅 (μs)	2.30 ± 0.10
q	垂直セレーションパルス幅 (μs)	4.70 ± 0.10

注 1 H は 1 水平走査期間を示し、 $1001/15.75$ (μs) である。

2 a、b、c、 S_a 及びVは、1の②に示す値とする。

5 走査線数が525本であつて、走査方式が順次の場合の垂直同期信号

(1) 垂直同期信号の波形



(2) 垂直同期信号の許容範囲

記号	項目	許容範囲
D	垂直ブランキング期間 (μs)	$42H + 5.35 + 0.15$ $- 0.10$
A	垂直ブランキング期間の開始点から 垂直同期パルスの開始点まで (H)	6 ± 0
B	垂直同期パルス期間 (H)	6 ± 0

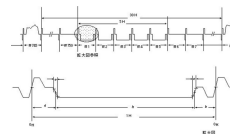
C	垂直同期パルスの終了点から 垂直ブランキング期間の終了点まで (H)	30±0
s	垂直同期パルスの立ち上がり／立ち下がり時 間 (10—90%) (μs)	0.07±0.01
q	垂直セレーションパルス幅 (μs)	2.35±0.05

注 1 Hは1水平走査期間を示し、1001/31.5 (μs) である。

2 a、b、c、Sa及びVは、1の②に示す値とする。

6 走査線数が750本であつて、走査方式が順次の場合の垂直同期信号

(1) 垂直同期信号の波形



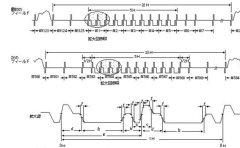
(2) 垂直同期信号の許容範囲

記号	項目	許容範囲
H	1ライン期間 (T)	1650±0
h	垂直同期パルス幅 (T)	1280+0 —12

注 Tは基準クロック期間を示し、輝度信号標本化周波数の逆数である。

7 走査線数が1125本であつて、走査方式が1本おきの場合の垂直同期信号

(1) 垂直同期信号の波形



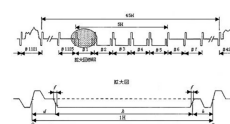
(2) 垂直同期信号の許容範囲

記号	項目	許容範囲
H	1ライン期間 (T)	2200±0
g	1/2ライン期間 (T)	1100±0
h	垂直同期パルス幅 (T)	880±3

注 Tは基準クロック期間を示し、輝度信号標本化周波数の逆数である。

8 走査線数が1125本であつて、走査方式が順次の場合の垂直同期信号

(1) 垂直同期信号の波形



(2) 垂直同期信号の許容範囲

記号	項目	許容範囲
H	1ライン期間 (T)	2200±0
h	垂直同期パルス幅 (T)	1980±0

注 Tは基準クロック期間を示し、輝度信号標本化周波数の逆数である。

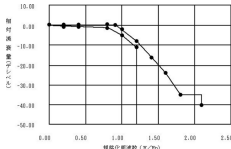
別図第二 水平走査の繰返し周波数及び標本化周波数の許容偏差（第4条第1項第2号、第4条第2項第2号、第4条第3項第2号及び第4条第4項第2号関係）

別図第三 搬送波の変調波スペクトルの許容範囲（第4条第1項第4号及び第4条第2項第4号関係）

区別 有効走査線数 （注1）	許容偏差（百万分率）						
	480本		720本	1080本		2160本	4320本 （注2）
走査方式	1本おき	順次	順次	1本おき	順次	順次	順次
水平走査の繰返し周波数 f _h	15.750/1.0 01kHz ±3	31.500/1.0 01kHz ±3	45.000/1. 001kHz ±10	33.750/1. 001kHz ±10	67.500/1. 001kHz ±10		
標本化周波数	13.5MHz ±3	27MHz ±3	74.25/1.001MHz ±10		148.5/1.0 01MHz ±10		
	6.75MHz ±3	13.5MHz ±3	37.125/1.001MHz ±10		74.25/1.0 01MHz ±10		

注1 この表において「有効走査線数」とは電波法施行規則第2条第1項第28号の3に規定する有効走査線数をいう。

2 高度広帯域伝送方式の場合に限る。



注 Fは周波数を表し、F₀はナイキスト周波数を表す。

規格化周波数 (F/F ₀)	相対減衰量 (dB)	規定の種類
0.0	+0.25	上限
0.0	−0.25	下限
0.2	+0.25	上限
0.2	−0.40	下限

0.4	+0.25	上限
0.4	−0.40	下限
0.8	+0.15	上限
0.8	−1.10	下限
0.9	−0.50	上限
1.0	−2.00	上限
1.0	−4.00	下限
1.2	−8.00	上限
1.2	−11.00	下限
1.4	−16.00	上限
1.6	−24.00	上限
1.8	−35.00	上限
2.12	−40.00	上限

別図第四
（関係）
アパーチャ補正（第4条第1項第5号

$$\begin{aligned} \text{(アパーチャ補正)} &= \frac{X}{200X} \\ X &= \frac{\pi F}{2F_N} \\ F_N &= 10.548 \text{ [MHz]} \end{aligned}$$

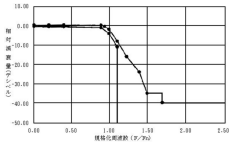
注 π は円周率を、F は周波数を、F_Nはナイキスト周波数を表す。

別図第五
（関係）
アパーチャ補正（第4条第2項第5号

$$\begin{aligned} \text{(アパーチャ補正)} &= \frac{X}{200X} \\ X &= \frac{\pi F}{2F_N} \\ F_N &= 14.430 \text{ [MHz]} \end{aligned}$$

注 π は円周率を、F は周波数を、F_Nはナイキスト周波数を表す。

別図第六
（第4条第3項第4号関係）
搬送波の変調波スペクトルの許容範囲



注 F は周波数を、F_Nはナイキスト周波数を表す。

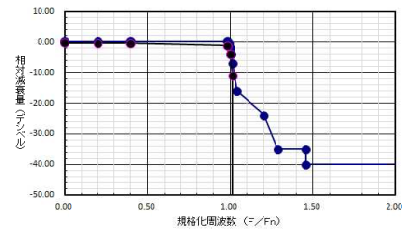
規格化周波数 (F／F _N)	相対減衰量 (dB)	規定の種類
0.00	+ 0.25	上限
0.00	− 0.25	下限
0.20	+ 0.25	上限
0.20	− 0.40	下限

0.40	+0.25	上限
0.40	−0.40	下限
0.89	+0.15	上限
0.89	−1.10	下限
0.94	−0.50	上限
1.00	−2.00	上限
1.00	−4.00	下限
1.11	−8.00	上限
1.11	−11.00	下限
1.23	−16.00	上限
1.40	−24.00	上限
1.50	−35.00	上限
1.70	−40.00	上限

別図第七 アパーチャ補正（第4条第3項第5号関係）

(アパーチャ補正) = $\frac{X}{20X}$
 $X = \frac{\pi F}{2Fn}$
 $F_n = 11.652$ [MHz]
注 πは円周率を、Fは周波数を、Fnはナイキスト周波数を表す。

別図第八 搬送波の変調波スペクトルの許容範囲（第4条第4項第4号関係）



注 Fは周波数を、Fnはナイキスト周波数を表す。

規格化周波数	相対減衰量	規定の種類
--------	-------	-------

(F / F n)	(d B)	
0. 000	+ 0. 25	上限
0. 000	− 0. 25	下限
0. 200	+ 0. 25	上限
0. 200	− 0. 40	下限
0. 400	+ 0. 25	上限
0. 400	− 0. 40	下限
0. 985	+ 0. 15	上限
0. 985	− 1. 20	下限
0. 992	− 0. 50	上限
1. 000	− 2. 00	上限
1. 000	− 4. 00	下限
1. 008	− 4. 00	上限

1. 015	− 7. 00	上限
1. 015	− 11. 00	下限
1. 040	− 16. 00	上限
1. 202	− 24. 00	上限
1. 288	− 35. 00	上限
1. 459	− 35. 00	上限
1. 459	− 40. 00	上限

別図第九
アパーチャ補正（第4条第4項第5号
関係）

(アパーチャ補正) = $\frac{X}{\sin X}$

$X = \frac{\pi F}{2F_n}$

$F_n = 16.87805 \text{ [MHz]}$

注 π は円周率を、F は周波数を、F_nはナイキスト周波数を表す。